

駐在員家庭の学校選択

駐在員家庭にとって、特に子どもの学校の選択は最大の関心事である。

泰日協会学校理事会

事務局長 玉垣洋一

駐在員保護者と日本人学校経営者という2つの立場を経験した者として、子どもの学校・進路の選択で悩まれている駐在員家庭にアドバイスをさせていただく責務があると考え、本稿を書いている。それぞれの家庭や国・地域・学校によって事情は千差万別であり、ここで述べる一般論が必ずしも正解とは限らないが、多少なりともご参考になれば幸いである。

子どもを国際人として育てたいが

日本の教育制度と欧米の教育制度は大きく異なる。それぞれに長所短所があり、優劣は決められないが、両者の乗り換えは容易ではないという点は強調しておきたい。海外駐在に出ると、「英語を学ばせたい」「国際人に育てたい」という意識が急に芽生えて、安易にインター校に子どもを入れてしまう親が多い。これは日本人の駐在員家庭が陥りやすい大きな罠で、実は筆者自身もその轍を踏んだ1人である。これはイン

ター校に子どもを入れるなど言っているのではなく、インター校を選ぶのであれば親として相応の覚悟が必要だという趣旨である。教育路線の変更は子どもに大きな負担を強いることになるので、欧米の教育制度で子どもを育てるという覚悟を決めた家庭に限り、インター校を選択してほしい。もしそういう選択をした場合には、逆に、なるべく早く欧米系の学校に子どもを入れることをお勧めする。

やや乱暴な区分けにはなるが、筆者個人の見解に基づく学校選択のガイドラインは表1の通り。



シラチャ日本人学校

表1 学校選択のガイドライン

子どもの進路	子どもの年齢	全日制的日本人学校が「ある」地域	全日制的日本人学校が「ない」地域
日本(式)の高校・大学	幼稚園以下	現地幼稚園・保育園	現地幼稚園・保育園
	小中学生	日本人学校	帯同しない
	高校生以上	帯同しない	帯同しない
欧米(式)の高校・大学	不問	インター校 (欧米の場合は現地校を含む)	インター校 (欧米の場合は現地校を含む)

(筆者作成)